

Ⅱ-8

本を通して親子でコミュニケーション ～読み聞かせ、どうしてる?～

対象：幼児期（4～6歳）の子どもをもつ保護者
時間：45～60分程度

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 親子で楽しい時間を共有し、親子の絆を深める手段の一つとして「読み聞かせ」があることを理解する。 ○ 図書館を利用してみようという気持ちをもつ。 		
実施のポイント (評価など)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子育てで必要な子どもへの声かけ・ふれあいの一つとして「読み聞かせ」があり、親子で楽しい時間を共有する大切さを理解することができる。 ○ 子どもと本を通して楽しい時間を共有しようという気持ちをもつことができる。 		
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ○ 名札 ○ ペン ○ 付せん紙 ○ 模造紙 ○ ワークシート ○ 資料 ○ 参加者の子どもが興味をもちそうな本 ○ 図書館利用案内 ○ おすすめ図書一覧（参加者の身近な図書館が発行しているもの） ○ 図書館イベント情報（参加者の身近な図書館が発行しているもの） 		
時間	学習活動	学習活動のねらいとポイント	準備物
導入 5～10分	<ul style="list-style-type: none"> ・趣旨説明 ・自己紹介 ・3つの約束 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者自身の幼い頃の読み聞かせの経験や現在の読書実態等を自己紹介に取り入れ、プログラムのテーマに関心を引き寄せたり、グループの中の役割を決めたりする。 	
展開 10分	ワーク1 <ul style="list-style-type: none"> ・エピソードをもとにグループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもへの読み聞かせで困った経験があることを共有することをねらいとする。 ・エピソードをもとに、どんな声かけをするか話し合う。 ・共感しながら聞くことで、読書傾向や読み聞かせで困ったことを発言しやすい雰囲気を作る。 	
20～25分	ワーク2 <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせで困ったことや気になること、良かったことを付せん紙に書く。 ・グループで話し合う。 ・幼児期の読み聞かせのポイントを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもへの読み聞かせで困ったことや良かったことを話し合う中で、幼児期では親子で楽しい時間を共有する大切さを理解することをねらいとする。 ・子どもに対する読み聞かせや読書について「困ったことや気になること」、「良かったこと」を付箋紙に書いて話し合う。 ・グループの中で同じ意見をグループ分けしながら、困ったことに対してどう対応をしているか話し合う。 ・資料をもとに、困ったことへの対応（同じ本でも大丈夫、物語にこだわらなくてよいこと、就寝前でなく親子の時間が取れるときでよいこと等）を確認し、幼児期の読み聞かせは親子で楽しい時間を共有することが大切であることを理解する。 	付せん紙 模造紙
5～10分	ワーク3 <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせの疑似体験をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもに対して読み聞かせを「やってみよう」という気持ちが高めることをねらいとする。 ・「ファシリテーターが参加者へ」または「グループごとに代表が」読み聞かせをする。 ・読み聞かせについて感想を交流する。 ・図書館等、絵本と出会える場所を紹介する。 	参加者の子どもが興味をもちそうな本
まとめ 5分	ふりかえり まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・気付いたことや感想を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせは義務的にするものではなく、親子で絵本を通じて一緒に遊んだり、リラックスしたりする過ごし方の一つとして行ってほしいこと、本と一緒に読むだけでなく実体験との呼応が大切であることを伝える。 ・親子で過ごす楽しさや経験が、子どもが中高生に成長したときも親子の絆として残ることを伝える。 ・図書館利用を呼びかける。 	図書館利用案内や本の紹介、イベント情報等